

しん じゅ 新 樹

前橋市男女共同参画情報誌

回 覧

12 号

2004年9月

「新樹」=水と緑のまちをイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようという願いを込めました。

- ・ 前橋市男女共同参画基本計画 「まえばしWindプラン2004」 策定P2
- ・ 聞いてみました 大学生のホンネP4
～パートナー観とパートナーとの
性別役割分業について～
- ・ おじさまインタビューP7
救急隊員 千葉瑠美子さん
育休を取得した 岩崎年伸さん
- ・ 男女共同参画室だよりP8
「まえばしWindプラン2004」ダイジェスト版
男女共同参画セミナーのお知らせ
相談室からのお知らせ
編集後記



* 男女共同参画

「参加」は仲間になることで、「参画」は方針決定の場に加わることです。

女性と男性が、社会の対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野に共に参画し、喜びも責任も分かち合う社会を目指しましょう。

前橋市男女共同参画基本計画 「まえばしWindプラン2004」策定

これまでの経過

前橋市は、平成15年4月施行の「まえばし男女共同参画推進条例」(以下「条例」)によって、基本計画の策定が市長の責務と位置づけられたのに伴い、計画の策定にあたり前橋市男女共同参画審議会(以下「審議会」)に諮問することとなりました。審議会は活発な審議の末、平成16年1月に答申し、前橋市は答申における広い分野にわたる提言や意見を尊重しながら、平成16年3月、「まえばしWindプラン2004」を策定しました。

計画の目的

市民一人ひとりが、お互いを大切に、性別にかかわらず、個性を輝かせて生き生きと暮らすことができる社会の実現

条例において、目指すべき社会として規定された前橋市の男女共同参画社会の実現が、この計画の目的となります。

条例を受けて制定する新しい基本計画として、この基本計画は目的と基本理念を条例と共有します。

計画期間

2004(平成16)～2008(平成20)年度

近年、本市を取り巻く社会経済情勢の変化はますます加速し、将来の予測が困難で不透明な状況が進むとともに、市民の価値観やライフスタイルも多様化していく方向にあります。

こうした状況を踏まえ、この基本計画の計画期間を2004年度から2008年度までの5か年とします。

計画の位置づけ

この計画は条例第9条に基づき、前橋市の男女共同参画の推進を総合的かつ計画的に推進し、実施するための基本計画です。

また、「男女共同参画社会基本法」第14条第3項に規定されている「市町村男女共同参画計画」にあたります。

計画の特徴

① 計画の基本目標は、条例の基本理念の達成をめざしています。

そのため、条例の基本理念を計画の基本目標として、施策を組み立てました。また、条例の推進基盤を固めるための5年間の実行計画に相当します。

② 市民と協働して進める計画

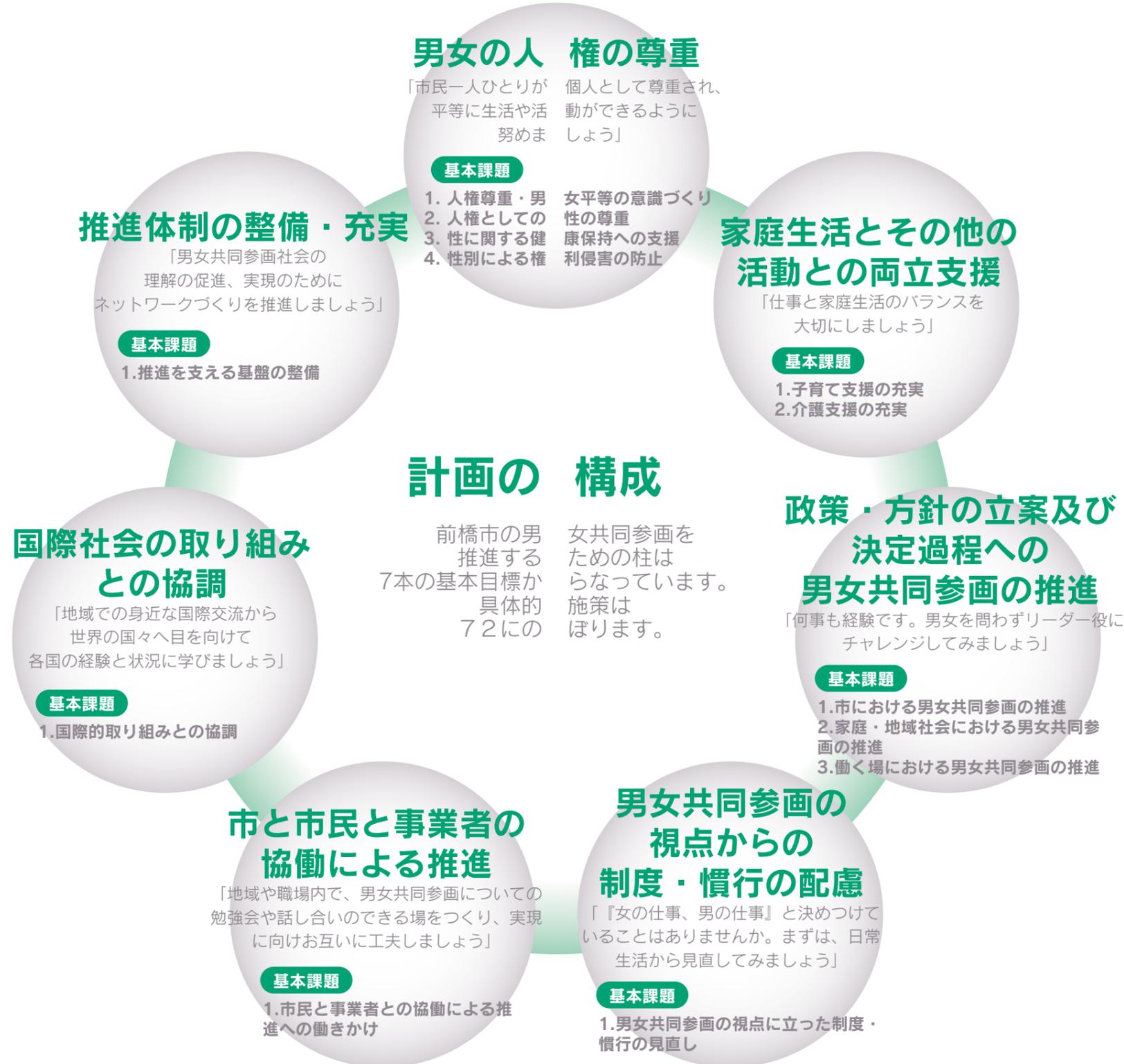
男女共同参画の推進にあたっては、市民一人ひとりがその意義を十分理解し、自らのこととして取り組むことが欠かせません。条例では、市と市民と事業者の相互の協力と主体的な取り組みの重要性を規定しましたが、この計画でも、市民や事業者に対して協働による推進を働きかけます。また、計画の推進体制の中に、審議会や調査委員など市民の審議機関の活動を位置づけることで、計画へのチェック機能と情報公開を図ります。

③ 合併後も視野に入れて

この計画の策定にあたっては、前橋市が今後進める合併も視野に入れて検討を続けてきました。「まえばし男女共同参画推進条例」と「前橋市男女共同参画基本計画『まえばしWindプラン2004』」は、合併後の前橋市においても、本市の男女共同参画を推進するための柱となる「条例」と「基本計画」になります。

計画の名称

今回策定する計画は、本市初の女性行動計画「まえばしWindプラン21」の名称と精神を継承し、条例策定後の5年間という限定された期間の推進を担う計画として、策定年である2004を新たに加え、前橋市男女共同参画基本計画「まえばしWindプラン2004」としました。新しい名前とともに、さまざまな新たな課題に、より対応できる計画にします。



聞いて
みました

大学生のホンネ

「結婚や出産・子育てに関して、大学生ってどんなふうに考えてるんだろう？」と思ったのが、この座談会を企画したきっかけです。今回は“パートナー観とパートナーとの性別役割分業”というテーマで大学生の生の声を色々と聞いてみました。前橋に在学中の3大学、5名の学生さんに集まっていたいただきましたが、初対面にもかかわらず、和やかな雰囲気の中、座談会は始まりました。



まつした まさてる
松下 真輝さん
(前橋工科大学)



まつふさ あや
松房 綾さん
(前橋工科大学大学院)



しもだ たかひろ
下田 貴弘さん
(共愛学園前橋国際大学)



ふくだ みなみ
福田 南さん
(共愛学園前橋国際大学)



もてぎ のぶひろ
茂木 伸浩さん
(群馬大学)



司会進行
「新樹」編集委員
やまぎ きぬえ
山岸 絹恵さん
(共愛学園前橋国際大学)

司会 では、座談会を始めたいと思います。「女性の幸福は結婚にある」と言われていますが、人は結婚したほうがいいのか、パートナーと暮らしていくんだったら結婚しなくていいのか、皆さんどう思っていますか？ここでは、パートナーを「配偶者、または結婚していないけれど一緒に暮らしている人。その人と一番親しい関係にある人で、人生を共に生きたい人、または人生を共に生きている人」として考えていただいて。

福田 結婚しないと幸せになれないって思わされる気がします。パートナーがいればいいという考え方に自分ひとりがなれたとしても、回りに「なんでそれでいいの？」って言われるんじゃないか、って。

茂木 結婚ってものがまだ身近じゃないから、結婚というのがとりあえず頭にポンとあって、実際にいざ結婚っていう時にそこまで意識できているのかなっていうのは…。

下田 結婚すれば幸せ、っていうイメージはあるかもしれないけど、その人にとって幸せかどうかは、結婚してみないと分からないと思うし、個人の意見を尊重しなくちゃいけないと思います。

松下 社会に出てお金をためて、それから落ち着いて結

婚するのが一番いいのかもしれないけど、気持ちだけが前に出てしまう。僕はすぐにも結婚したいくらいです。結婚って、この人となら幸せになれるだろうと考えてするわけだから、結婚してから幸せかどうかっていうのが問題じゃないと思うんです。自分も女性を幸せにしたい、と思ったら結婚してあげようと思うし。

松房 “結婚してあげよう”…。(一同笑)

松下 幸せになるためなら支えてあげるぞ、ってそれくらいの気持ちがないと。相手に対してね。

松房 お互いが幸せなら、結婚しなくてもいいかどうかはその人たちが選ぶ道で…その道を否定したりはしないし、結婚以外の道もあると思う。私は結婚したいですけど、何でかって言うと…とりあえず一つの区切り、覚悟を決めたその現れというか、安心料みたいな感じかな。

茂木 結婚って男性も女性も両方結婚したいからするんで、男性も幸せになりたいですよ。結婚したことによって、“ああ、この人たちはずっと一緒にいるんだな”っていう意思表示っていうのがあると思うんです。相手にも、周りの人たちに対しても。

司会 いざパートナーと暮らすと、料理や掃除を女性が担っている場合が多くて、その辺からくる不満が原因で、パートナーとの関係が悪化してしまう場合もあると思うんです。これからの世代は、パートナーと暮らす上で、どうしていけば良い関係が築いていけると思いませんか。

茂木 理想は互いに家事とか分担できて、例えばこの日は自分が残業だから相手に頼むとか、今度は自分が、っていうのが一番いいんですけど。でも、本音を言うとやっぱり女性が料理や家事をやってくれるほうがいいなと思ってます。

松下 僕も理想はお互い家事も分担するのがいいと思うんです。だけど女性がやってくれるのもっと嬉しい。

松房 男性が「女性がご飯を作ってくれるのは嬉しい」というのは共働きなら逆も当然あるわけで、女性もやってくればそれはそれで嬉しい。

松下 嬉しい、っていうのも違いがあるじゃないですか。

茂木 違いますよ、ねえ。(笑)

松下 女性の肉じゃがとか、なんか違うんですよ。…なんていうか…あつたかいんですよ。

茂木 そう！(笑)

福田 私は、家事には積極的になれないんで、パートナーと一緒にやろうと考えてます。お互い働けるんだったら働きたいし、妊娠とかで働けなくなったとしても、働けないから家事もやるけど、家事と育児は違う気がする。あなたは働いてきて確かに大変かもしれないけど、私もその間に働いてるのよ、って言いたい。

下田 この先、主婦って立場は否定できないと思うんです。家事をする人がいないと大変なことになると思うので、できるところとできないところをお互いにカバーしていけば一番ベストだと思います。

松房 結婚するならする前に、言いたいことは全部しっかり言わないと。子どもが欲しいとか、しばらくはこのままとか、子ども生んでも働きたいとか、反対に子育てに専念したいっていう人や専業主婦になっておうちのことをしっかりやりたいという人もいるだろうし。

下田 核家族だったり拡大家族だったりっていう環境の問題やその人の職業によっても違ってきますよね。

松房 女性は妊娠したら産むために仕事も休まなければならぬし、大きなプロジェクトに関わっていても途中で抜けてしまう可能性もある。それを考えると、男性のほうが使いやすいんだろうなとは思いますが。ただ、そういう会社ばかりだと、経済的に女性に力がついていかないと思います。会社が許してくれなくて仕事と子どものどっちか選ばなければならぬとなったら、仕事を選択する女性も増えてくるでしょう？女性が出産のために仕事を休んだりす



ることは、会社にとってリスクではあると思うんですが、それもある程度承知でやってくれないと、女性には子どもを生まない道も選択できるわけですよ。そうすると少子化がどうの、っていう事になりますよね。育児休暇だって制度はあるけど、もっと気軽に使えるようになれば、仕事と子どもを持つことの両方を選択できる人も増えると思うんですよ。

司会 なるほど。では、育児について男性の方は、自分が父親になったときにどのようにして育児に参加していったらいいと思いますか？

松下 僕は子どもは欲しいし、しかも働きたい。でも、今、男性が育休を取るってやっぱり社会的にも抵抗があるから…でも僕はしたいんです。育休も取りたいし、子育てもしたいし。休日は遊んだりとか、平日は帰ってしゃべってみたりとか、普通なことをしたいです。

茂木 遊んだりするのも重要だと思うんですが、一番大変なのは時間のことだと思うんですね。昼間どこかに行きたくても時間も場所も制限されてるというようなストレスのほうが大変だって。母親が、自分一人だけに育児を押し付けられて「なんで私だけ」っていうストレスで児童虐待が起こるとも聞いているので、一人だけじゃないんだよっていうことを毎日でも伝えなきゃと思ってます。口で言うのは簡単ですが、解消できるようなことは心のケアの面でも大切なんじゃないかと思います。

下田 父親は働いているけれど休日がある。母親も育児を休みたいときはあるわけで、母親が好きなことができる時間を作ってもいいんじゃないかと思います。だから、育児には積極的に参加しようと思ってます。

司会 女性から、こんなふうに父親に参加してもらいたいというのはありますか？

松房 私の母は生後1ヶ月から子どもを保育園に預けて働いていたので、自分も昼間子どもの面倒をみて夜になったらダンナさんが帰ってきて、っていうのがあまり想像できないんです。でも、女性はその子を産んだわけでしょ。男はおっぱいも出ないし、そういうかわり、繋がりを見たときに、男性はもっと自分から積極的に子どもにかかわっていかないと、母親よりも薄くなる気がします。だから、男はもっと焦れ！と思うんです。男性も女性も、子どもを育てることを、“大変だから自分も協力しない





と”、とか義務だからっていうんじゃない、子どもとの関係を見たときにむしろ積極的に接したほうがいいんじゃない?と思います。

福田 女性は母性本能があるから、お母さんは子どもの気持ちが分かるんだよね、なんていうけど、それは関わってる時間が長いだけじゃないかな。育児も家事も立派な仕事なんだから、お母さんの休みの時間を作ってあげることも必要だと思う。

司会 私も子どもを生んでも働きたいし、男性にも積極的に育児に参加して欲しい。むしろ社会のほうから積極的に育休を取りなさいって言ってくれるといいなと思います。そうすれば、お互いどのように生きたいかを尊重しあえる関係を築いていけると思うんですね。

松下 話関係ないかもしれないけど、僕、出身が福井なんです。群馬の女性は気が強くなって感じるんです。福井の女性は尽くしてくれるんです。普通に弁当作ってきてくれたりして。(注：福田さんと松房さんは群馬の出身)

茂木 (福井に) 行こうかなあ…、オレ。(一同爆笑)

松房 だから、尽くしてくれる人がよければ尽くしてくれる人を見つけたらいいのよ。

福田 尽くしたい女性は、尽くしてもらいたい男性に行けば。

松下 ああ、そういうこと。

福田 それでうまくいかなくてもどちらかが折れればいいんだから。そのためにはお互いに話し合わない。男性は一家の大黒柱として家計をささえる、女性は家事・育児・介護っていうふうになると不満が出ますよね。

司会 では、経済を支える一家の大黒柱として男性がイメージされがちであるということについてはどうですか?

福田 うちの母が3人姉妹を養っていたので。むしろ、育児も家事も仕事もやっていいんだって。男親でも育児も家事も仕事もできると思うから、大黒柱は男性という事はないと思う。

松房 自分も稼ぐ気であるので、別に男が支えて当

たり前とは思ってないです。親も共働きでしたし。
司会 うちも共働きで、お金の管理が母親だったので、むしろ母親のほうが家を支えているというイメージで、男性が家を支えているというイメージは無いですね。

福田 両方働いていて、さらに女性は育児も家事もしていても、男性は一家の大黒柱だって言われてるからお父さんも自分が大黒柱だって思ってるんじゃないかな?

松下 働くことも必要かもしれないけど、うちは実家の両親がお互い稼いでて…それを見てると、僕はどちらかというと女性にもどんどん稼いでもらって遊びたい…。

茂木 えっ、男の立場からして、オレが支えなきゃって思いませんか?

松下 思わない。だから女性が稼いでくれればいいと思う。

茂木 ご飯食べに行っても絶対お金は出させないとか。自分は女性に対して、男はもう少しやってやらなきゃっていう考えなんですよ。

福田 それが大黒柱につながるんじゃない?そのままいくとたぶん大変になるよ(笑)。

松下 そうそう!無理がね。

茂木 いや、大黒柱にはなりたいていう意識はあって。

松房 オレが一家を支えてやるっていう?

茂木 そこまでじゃないけど、頑張ってるんだぜい!って。

福田 それを言われたら代わりに女性だって一家を支えて頑張ってるんだぜい、ってなるでしょ。そういう考えは消したいな…そうやってかたよっちゃうとお互いつらい気がするんですね。

司会 お互いに不安にならないように、不安にさせないようにする関係が大事、少しでも不安があると、関係ってゆがんでしまったりするだろうから、そういうのを無くすためのお互いの努力が必要なんじゃないかと思います。

茂木 すっごく勉強になりましたね(笑)。

福田 男だからこう、女だからこう、っていうのが無くなればいいんじゃないかな。

司会 そういう固定観念を無くしていくともっといいんでしょうね。ご協力どうもありがとうございます。

いかがでしたでしょうか?私自身、話を聞きながら「みんな色々考えているんだなあ」と驚きの連続でした。笑いあり、考えさせられることありの、充実した座談会でした。是非皆さんも、同じテーマで周りの人と話し合ってみて下さい。

(編集委員 山岸)



おじゃまインタビュー



ちば るみこ
千葉 瑠美子さん

(救急隊員：前橋広域消防本部所属)

きっかけは救急車

千葉さんは、幼い頃体が弱かったので、よく救急車のお世話になったそうです。そのことを母親から聞いていたので、いつしか「自分も救急隊員になって、お世話になった方々に恩返しをしたい。そして、人の役に立つ人間になりたい」と思うようになりました。

千葉さんの中にも、救急隊員は男性の仕事、というイメージは多少ありました。しかし、念願かなって救急隊員になり、昼夜を問わない不規則な勤務をこなすうちに、自分だからこそできることもあると気づき、3年目になった今では元気で明るく仕事に取り組んでいるそうです。

救急車の出勤は、一日平均5件ほどです。中には急病・交通事故等々、一刻を争い、意識が無く生死の境をさまようような人を搬送することもあります。後日家族から、無事回復しました、と連絡をいただいた時などは「この仕事をしていたよかった」と誇りに思うそうです。

特に「年配の方やお子さんそして女性など、救急隊員が女性だと話しやすいのか、安心して応答していただけるようです。また、同乗した方から励ましの言葉をいただくこともあります。これから少しずつ女性の救急隊員も増えるといいですね」とも話してくださいました。

新たな目標に向かって

こうして初期の目標を達成した千葉さん。次なる目標は、と尋ねると「救急救命士をめざし、日々頑張っております」と話されるその目は輝いていました。

自分の夢や目標に向かって頑張っている後輩たちには、「夢は願ひ続ければかなうと思います。あきらめずに、努力は惜しまず、人に優しく人を思いやる心を大切に!」と、力強く、また自分自身に言い聞かせるようにメッセージをいただきました。

これからも、常に前向きさを原動力に、休日などは地域の人々との交流や自分にできるボランティアをこころがけたいとも話されました。

最後に、千葉さんを暖かく、ときに厳しく励まして下さる尊敬するご両親に心からの感謝の意を語ってくださいました。



いわさき としのぶ
岩崎 年伸さん

(高校教諭：群馬県立桐生工業高等学校)

自分が取るのが最良の道でした

岩崎さんは1歳になった第2子のために、昨年9月から3月まで育児休業を取得しました。「妻も自分も働き続けたいという現実の中、子どもの成長、夫婦それぞれの仕事の状況などを考慮すると、自分が育児休業を取得するのがベストなのではと思えた」と言い、「取ることに特別な意識があったわけではありません」と笑顔で話されます。

もちろん、職場での理解とフォローが不可欠でしたから、「同僚に打ち明けることが一つの山かな」と感じたそうです。しかし、家事や育児は以前から分担しておこなっており、料理も得意なので、自分にも周りにも不安は無く、育休に入るのを楽しみにしていたということです。

父親の育児生活

休業中は、“育休”だから子育て優先!家が多少散らかっていても気にしない、と割り切ったそうです。三食作って、食べさせて、遊んでという毎日。「べったりしていると子どもがよく見えてくる。子どもへの想いがこれほど濃くなるとは思わなかった」とおっしゃいます。

しかし、その毎日はなかなか変化に乏しく、「これでいいのか、この子の大切な時期にもっとしてあげられる事があるのでは」と考え悩む日々でもあったようです。少しでも変化を、と毎日違う公園で遊ばせたり、子どもをおぶって山登り、など岩崎さんならではの工夫をしたとのこと。7か月間自分のための時間はほとんどなかったそうですが、「一人で釣りに行く時間が取れた時も、子どもと一緒にいればよかったと思った」と話されます。そして、「休暇最後の日には遊園地で泣きそうになりました」とも。

復職した今、「子どもって自然に大きくなっていくものかと思っていただけで、それは違うということに、育休を取って初めて気づきました」と振り返ります。「あの頃に比べると今では子育てをしているという実感がわからない」そうですが、今でも週2回は家族に手料理を出せるよう努力しているとおっしゃっていました。

また、「育児休業を取得するかどうかはそれぞれの家庭の事情によるもの。取得しようと思えることが男女共同参画につながるのでは」と穏やかに話してくださいました。

男女共同参画室だより

「まえばしWindプラン2004」 ダイジェスト版をお送りします

2ページに掲載のとおり、平成16年3月、前橋市男女共同参画基本計画「まえばしWindプラン2004」を策定しました。

この計画は、平成15年4月に施行された「まえばし男女共同参画推進条例」の基本理念を踏まえて、これを実行に移すための基本計画です。この計画の個人配布用のダイジェスト版を作成しました。

また、「まえばし男女共同参画推進条例」のパンフレットも在庫がありますので、送付ご希望の方は男女共同参画室までお問い合わせ下さい。

男女共同参画セミナーのお知らせ

男女共同参画室では、男女共同参画セミナーを開催します。(入場無料)

期 日 平成16年10月31日(日)

場 所 前橋市総合福祉会館
(日吉町二丁目)

講 師 はやし ふみこ
林 文子さん
(BMW東京(株)代表取締役社長)

定 員 200名

詳しくは、広報まえばしにて掲載予定です。

過去のセミナー記録集をご覧になりたい方は、男女共同参画室までお問い合わせ下さい。

相談室からのお知らせ



配偶者等からの暴力、セクハラ、職場や家庭生活において悩みをお持ちの方、一人で悩まないでお気軽にご相談下さい。

相談時間 月～金 8:30～17:15

場 所 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館2階

電 話 027-890-6520 (直通)

相談室のパンフレットがあります。ご希望の方に無料配布します。

編集後記

4月から編集委員が一新しました。「新樹」編集にかける意気込みをどうぞ。

- 男女共同参画は、私達の意識改革から始まります。誰にも読み易く、かつ中身の濃い情報誌作成のために頑張ります。(梅山)
- 「新樹」がもっと身近になるように、新しい事を試みながら作っていききたいと思います。(山岸)
- 多くの人に読んでいただける「新樹」となるように、お手伝いできればと思います。(木村)
- 一年前に「新樹」のインタビューを受けたことのある私が、立場替わって編集委員になろうとは、不思議な縁を感じます。(早間)
- 家庭に職場、そして、これからは介護が重要な課題です。男女共に、互いの立場を尊重し生活できたらと思います。(近藤)



梅山東子 山岸絹恵 木村雄介 早間輝彦 近藤綾子

12号のご意見・ご感想は男女共同参画室まで。

発行日■平成16年9月15日 発行■前橋市 生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館2F
直通電話■890-6517 FAX■221-6200 メールアドレス■sankaku@city.maebashi.gunma.jp

編集■「新樹」編集委員

「新樹」は前橋市のホームページからでもご覧いただけます。気軽にアクセスしてみてください。